



令和元年度 文化で滋賀を元気に!シンポジウム

アートは地域に何ができるか〈滋賀編〉

令和元年11月30日(土) 14:00~16:30

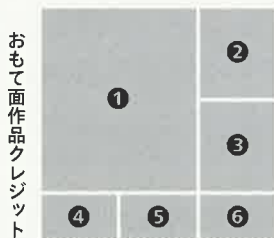
会場: コラボしが21 大会議室(大津市打出浜2-1) 入場無料(要参加申込)
京阪石場駅より徒歩3分/JR膳所駅より徒歩15分



〔主催〕文化・経済フォーラム滋賀 〔後援〕滋賀県、滋賀県教育委員会、公益社団法人びわこビジターズビューロー

社会や人々の価値観が多様化していく今、アートを通して私たちの暮らしの未来を考えるヒントが見えてくる。

滋賀では、どのようにアートと地域がつながっているのでしょうか。長い歴史と豊かな文化に恵まれた環境に惹かれ、滋賀には多くのアーティストが県外から移り住んでいます。地域に息づくヒト、モノ、コトとアートが有機的につながること、アートを通じた地域の新たな未来が見えてくるかもしれません。あなた自身のアートによる気づきの体験も会場で共有し、滋賀らしい関係づくりについて考えてみませんか。



- おもて面作品クレジット
- ① 田中哲也「輝器-KAGAYAKI」2012
滋賀県野洲市兵主大社楼門(滋賀県重要文化財)
 - ② 井上唯「この土地に生きる」2019
滋賀近美アーツポットプロジェクトVo.2《Symbiosis》
 - ③ 藤原昌樹「テツノネ」2018 BIWAKOビエンナーレ2018
 - ④ ながらの座・座
 - ⑤ 滋賀県立大学環境建築デザイン学科
「ヨシドーム」2016 ラコリーナ近江八幡
 - ⑥ 伊吹の天窓 2019

《コーディネーター》 加藤 賢治 氏 Kenji Kato

文化・経済フォーラム滋賀幹事、同企画推進員／成安造形大学准教授

《事例発表者》

「アートと地域の出会い - 瀬戸内海の島々の事例」

宮本 結佳 氏 Yuka Miyamoto

滋賀大学教育学部准教授



1981年滋賀県生まれ。奈良女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程修了。博士(社会科学)。専攻は、環境社会学。アートプロジェクトと地域づくりの関係について、瀬戸内海の島嶼部の事例等を対象に研究を行っている。著書に「アートと地域づくりの社会学 直島・大島・越後妻有にみる記憶と創造」昭和堂(2018年)。

「越境 Cross Border - 滋賀と世界 工芸とアート」

田中 哲也 氏 Tetsuya Tanaka

陶芸家、IAC国際陶芸アカデミー会員

名古屋芸術大学、京都造形芸術大学講師



陶と金属を組み合わせ、工芸であり現代美術でもある作品を制作。滋賀県立陶芸の森など滋賀を拠点に国内外でレジデンスや展覧会等を展開。田中哲也展(台湾/2019)、BIWAKOビエンナーレ(2007~18)、越後妻有アートトリエンナーレ(2012)、秀明文化基金賞(2016)、台湾国際陶磁ビエンナーレ優選他、招聘レジデンスは韓国、中国、オランダ、台湾など。

「自然と文化を活かした地域づくり

- 近江八幡でのまちづくりの実践」

田口 真太郎 氏 Shintaro Taguchi

株式会社まっせ マネージャー



1987年茨城県日立市生まれ。滋賀県立大学大学院にて環境科学修士取得。近江八幡市の地域おこし協力隊員を経て、2013年よりまちづくり会社「(株)まっせ」のマネージャー。地域資源(自然・歴史・文化)の保全と活用をテーマに、市民、企業、行政、大学など異なる立場の人たちと連携した調査や分析を通じた新しいまちづくり活動に取り組む。

《コメンテーター》

岡田 修二 氏 Shuji Okada

成安造形大学学長、画家

川戸 良幸 氏 Yoshiyuki Kawato

文化・経済フォーラム滋賀代表幹事
(公社)びわこビクターズビューロー副会長

【文化・経済フォーラム滋賀とは】文化活動を経済や市民が支えて活発にすることで、地域を元気づけ、うるおいのあるまちにしようとして2011年に発足。会員は文化、経済、行政、メディアなどの約190(個人・団体・法人)、事務局はびわ湖ホール内に設置。

参加申込書【11/27(水)締切】

FAXまたはEメールにてお申し込みください。右のQRコードよりWebフォームからもお申し込みいただけます。ご記入いただいた個人情報は、このシンポジウムの運営以外の目的には使用しません。



〒
ご住所

お名前

Eメール

TEL

FAX